

# 令和7年度(2025)年度の事業経過

## ◆障害者による文化芸術活動の推進に係る調査及び取組実施

令和7年度に本市は障害者による文化芸術活動の推進を図るため、障害者団体等とのワークショップや障害者の文化芸術活動の推進に係る取組の実施を通じて、今後の有効な事業の検討を行った。

### ①関係者によるワークショップの開催

本市では本年度より障害者によるアート活動を推進するための調査、ワークショップ等を試験的に実施した。

令和7年6月から福祉関係者、行政、美術館博物館等の担当などが集まるワークショップを開催。

ワークショップは3回シリーズで開催され、延べ60名が参加した。

ワークショップでは「障害者に対して自分は何ができるか」を考え、来年度事業案につなげていく議論を交わした。

結論としてさらばしアートセンターと下石井公園を会場においてアートをテーマに健常者と障害者が接点を持つイベントを開催するという事業が提案された。

## ◆提案されたプログラム

「さらばしアートフェス」

- ・イベントはさらばしアートセンターと下石井公園で開催し、飲食店の出店やスタンプラリーなど関わりやすいポイントを作り、地域住民と障害者が参加して大型オブジェを作るワークショップをメインプログラムとする。
- ・学生等を運営に巻き込むことで次の活動につながるネットワークの形成を目指す。
- ・またイベントでは障害者のアート作品を販売も行い、障害者の経済的自立も目指していく。

【効果】・多様な参加者が集まり「障害者支援」をテーマに議論し交流ができたことで関係性構築の一步を踏み出せた。

・参加者が納得できる来年度の事業案を作ることができた。

【課題】・当事者である障害者の参加が少なく、当事者のニーズを深く知る機会にはならなかった。

・アート関係者が「福祉」に寄りすぎてしまい望んでいた融合が図れなかった。

・障害者のアート活動を実際に見学するなど現場を知る機会が不足していた。

【令和8年度の方向性】

- ・提案されたプログラムをベースに「障害者アートイベント」を開催する。
- ・関係者のネットワークを深化させるためワークショップは継続する。
- ・ワークショップでは「障害者アート」の利用をメインテーマとし、その一環として障害者のアート活動の現場を見学する。

### ②さらばし★アート展の開催

県内外の障害を持つアーティストが応募するアート展「第9回さらばしアート展」を岡山市と岡山県障害者文化芸術協会の共催により開催。

11月2日(日)から11月16日(日)までの間さらばしアートセンターへ優秀作品135点を展示。

11月1日(土)にはオープニングイベントとしてシンポジウムを開催。

芸術大学教授や市内支援学校校長、市内支援施設施設長を招いて「障害者によるアート活動」について意見交換が行われた。

【効果】・障害を持つアーティストの素晴らしい作品を市民が気軽に見る機会を作れた。

・応募数から障害を持つアーティストの応募意欲が高いことが分かった。

【課題】・アート展の広報が不足しており、市民の認知が低い印象を受けた。

【令和8年度の方向性】

- ・障害者アーティストの発表の場、実際のアート作品を市民が見る機会として有効と判断し、障害者アート展は令和8年度も開催する。
- ・広報が不足していたため、令和8年度についてはSNS等様々なメディアを活用し周知に努める。

### ③障害者団体、障害者へのアンケート、聞き取り調査の実施

障害者のアート活動環境の実態を把握するため、障害者施設及びアート活動を行っている障害者に対してアンケート調査を実施。

障害者施設は12施設、アート活動を行っている障害者については4施設の27名を対象とした。

【効果】・多くの障害者は自身のアート作品が発表される機会があることについてよいイメージを持っていることが分かった。

・多くの施設担当者は障害者のアート活動はあくまでレクリエーションで仕事ではないというイメージを持っているかが分かった。

【課題】・障害者のアンケートではビジネス利用以前に、売れると思っていない認識が明らかとなった。

・施設担当者からはアート活動への支援はほとんど行われていないという実態が明らかとなった。

・アンケート調査の特性もあり具体的な課題や意向の聞き取りまでは至っていない。

【令和8年度の方向性】

・アンケート結果から見てきた傾向や課題を、令和8年度及び今後の事業推進の参考とする。

・アンケート結果を鑑み、障害者によるアート作品が一定の価値を持つことを関係者及び市民に周知する活動を行う。

・クリティカルな課題については再度聞き取りを行い、課題への解像度を高める活動を行う。